

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	郡山ケアハートガーデン グループホームあさかの郷
(ユニット名)	1階(わかくさ)
記入者(管理者) 氏名	遠藤 明美
評価完了日	平成20年10月15日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	大切なその人らしさ、ご家族との関係、地域との関係など、お互いの関係を重視した理念を掲げている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員採用時には必ず理念を伝えている。また日々再認識するように朝の申し送り時に出勤者全員で唱和している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入所時及び面会時に説明したり、ホーム便りを活用している。ホーム玄関、リビングの目に付き易いところに掲げている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	積極的にこちらから挨拶するように心がけている。利用者様と共に散歩や買い物に行き挨拶を交わしたり話をしたりしている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に入会、行事（盆踊り、お祭り等）に積極的に参加している。老人会、幼稚園との交流の他にもボランティアの方々がお茶会などのためにお越しいただいている。	近所の方が当たり前のようにお茶飲みや話をしに立ち寄ってもらえるようにしていきたい。また、友人宅へ訪ねたりできるように支援していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方からの相談、対応を随時受け付けている。</p> <p>運営推進会議で話し合いしたり、地域新規開設予定職員研修、近隣学生など実習生の受け入れを行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義や目的を共有し全員で自己評価を行っている。</p> <p>外部評価の結果は会議で報告し、改善に向けて職員全員で取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて評価への取り組みや利用者様の動向、活動状況を報告し、避難訓練など施設行事への参加要請や意見をもらいサービスの向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者と相談しながら行っている。</p> <p>出向いたり、電話で相談、意見をいただき、質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要と思われる場合はスタッフをはじめ関係者と話し合い活用できるよう支援する。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行ったり、身体拘束の資料を回覧したりして意識を高めている。職員同士が自覚を持ち、見過ごさないよう防止に努めている。</p> <p>職員同士が言葉遣いや行動に注意し、防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約書及び重要事項説明書を基に説明している。</p> <p>疑問点や意見等も伺い説明し、納得いただいている。解約時も家族や関係者等に説明し納得を図れるようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が月2回来所。</p> <p>利用者様の相談に乗って頂いている。素直な意見を伺い、即現場に伝え反映させている。運営推進会議にも家族代表2名に参加いただきご意見を伺う機会を設けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に最近の状況を伝えている。</p> <p>遠方の方にはTELや年4回のあさかの郷便りの他に手紙を書くなどして発信している。金銭の管理については個別の出納帳に記入してレシートと一緒に報告している。報告の際にはサインも頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などに意見や要望、苦情について投げかけをし、何でも話せる雰囲気作りに努めている。意見、要望、苦情があったときは即時スタッフに伝えて反映させている。又職員は普段の会話の中からもご家族の意見や要望、苦情を汲み取ることを意識し、情報カードに記入するようにしている。また、その内容についてユニット会議で話し合い意見、要望、苦情に沿えるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の全体会議と各ユニット会議で意見や提案の場を設けて反映させている。</p> <p>発言しやすい雰囲気作りを心がけている。また、ヒヤリ、ハット提案制度を実施し、極力対策を実施するよう心がけている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様やご家族の状況や変化や要望に対応できる人員を確保している。管理者は状況に応じた対応が出来るようにシフト勤務にはしていない。夜間の対応や利用者様の状態(急変等)に応じられる体制になっている。芋煮会など主要行事時には可能な限り必要な時間帯に職員を確保できるようにしている。</p>	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>信頼、安心のため職員を担当制とし固定化し馴染みの関係を築けるようにしている。職員間での信頼構築を図るために何でも言い合える環境づくりや仕事に責任や目的を持ち、やりがいを見出せるように努めている。職員が代わる場合は引き継ぎ期間を取れるよう配慮し、新職員はご家族に紹介し引き継ぎがよりスムーズに行われるよう努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県市町村、社会福祉協議会、社内の研修会に参加させ、全体会議で報告、共有化している。また、随時対応方法や不測の事態にそなえ対策をアドバイスしている。また法人全体としても全国の職員を定期的に階層的に集合研修する場を設けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会に参加した際に交流の機会を持つようにしている。社内の全国研修会に参加した際もネットワーク作りをし、サービスの質の向上のための参考にしてしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスが軽減できるよう関係作りや環境づくりに取り組んでいる。休憩室を設けており勤務中に一息つける時間も作っている。有給休暇取得についても日勤専門の職員を配置するなど、取得しやすいよう配慮している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が興味ある研修や資格を得るための講習会を優先的に受講できるようサポートし資格取得の支援を行っている。会社としては介護福祉士等の資格取得時には表彰制度を設け、表彰金を付与している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>喜怒哀楽が表出されるようにお茶や食事時に一緒に話したり、ふれあいの時間を大切にしている。</p> <p>個々の能力に応じ、力が発揮できる場面作りを心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの状況や気付きを伝え、ご家族の意向や要望を伺い、計画や関わりの中に取り入れている。 ご家族と過ごされる時間を大切にする為に面会、外出しやすいうように取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、ご家族のお互いの思いを大切に受け止めより良い関係が築けるよう努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が気兼ねなく訪問して頂けるよう伝えている。ご家族との外出、外泊等支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係を把握し、食事の際の席の配置など考慮。利用者様が孤立しないで過ごせるように職員が橋渡しを心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も今までの関わりを大切にし、必要なときはいつでも相談に対応できるよう心がけている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を大切にし、希望や意向を伺いご本人の希望を叶えられるようご家族と話し合い、検討している。</p> <p>また、生活や言葉から察する努力をし把握に努めてユニット会議等にて共有化している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前にご自宅やご本人の居場所等を訪問しご本人、ご家族、関係者等から話しを聞いたり無理のない範囲内でご家族にアセスメント用紙に記入いただいている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの過ごし方、心身状態、ケアプラン等生活シートに記入し、スタッフ全員が把握できるようになっている。他連絡事項は連絡ノートを活用し連絡がいきわたるようにしている。また、ユニット会議、ケアカンファレンスで共有化している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人、ご家族の要望や意向を伺ったり意を察して職員と課題となることを話し合い、介護計画を作成している。また、ユニット会議、ケアカンファレンスで共有化する他にいつでも見られるようにファイルに綴じている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画書に期間を設けそれに応じて見直しを行っている。見直し前に変化が生じた場合でも本人、家族、職員と話し合い現状に即した計画書を作成している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活シートに一日の様子を記録し情報を共有している。気づきやアイデアも活かせるよう記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会、民生委員、老人会、ボランティアの方々にはお茶などの諸行事にて積極的な協力を得ている。 他に避難訓練の際には近隣住民、消防署にも協力いただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じ、訪問理容のサービスを利用している。 また必要な福祉機器の整備、設置の支援や主治医以外の医療機関からの往診を希望に応じお願いすることもある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が利用者の担当ケアマネジャーだったり運営推進委員であるので情報交換がしやすく、協力させて頂いている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医は事業所の協力医またはご本人、ご家族が希望される医院と選択は自由である。ご家族や医療機関への情報提供を行い適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>例として脳神経専門医療機関が協力医療機関になっており必要に応じて相談したり情報提供したうえで治療を受けられるようになっていく。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>早期退院に向けて、面会に行き関係者と話をする機会を設け、そこで得た情報を準備や段取りに活かしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に向け、事業所として対応でき得るケアについて早い段階からご家族、医療機関と話をしている。 利用時にもご家族には説明をしている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ご本人やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医と相談しながら今後の変化に備えられるよう全職員とも話し合い、取り組んでいる。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住まいが変わってもこれまでの暮らしが継続できるよう、支援の内容や方法、注意すべき点について家族やケア関係者にアセスメント用紙や計画書を用いて伝え、事前面接も行って頂くことで情報交換を密なものにしダメージを防いでいる。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の意識向上もかねて、プライバシーやプライドを損ねないように、イニシャルで伝えたり他者に気づかれないよう声かけをするなどの対応をしている。</p> <p>個人情報保護、秘密保持についても社内マニュアルにより徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>常に問いかけの言葉かけをしたり選択肢を提案するなどして、ご本人の意思表示、決定する場面作りを支援している。また、表情や態度から意味を察したり読み取る等職員の意識向上にも努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の生活の流れはあるものの、一人一人、その時々体調や気持ち、思いに配慮し柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>好みの服を選んで着ている。</p> <p>理容、美容もご本人の希望で昔から通っていた美容室へ行かれる方もあります。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の皮むき、お膳並べ、テーブル拭き、片付け等、利用者様の力に合わせて声をかけ一緒に行っている。味付け、いろどりに気をつけ食べやすく刻んだり薄くしたりし、同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>まわりの利用者様との関連を見極めながら楽しみを楽しくして頂けるよう、一緒に買いに行ったり作ったり努めています。 病気や服薬の関係で楽しんで頂けないこともあるが、主治医、ご家族と相談しながら、より好みに近づけるように工夫しながら行っている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄の時間帯や仕草、習慣を把握して、トイレの声かけや誘導をして気持ちよく排泄が出来るよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>体調に応じて、ご本人の意思を伺って入浴していただいている。 気が乗らない方、しばらく入浴されていない方にはタイミングを見計らい薦めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中、体を動かす機会を設け、活動を促し生活リズムを整えられるよう努めている。 夕食後、TVを見たりおしゃべりをしたりと就寝時間は自由に行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>食事作りの手伝い、片付け、洗濯物干し、たたみ、散歩がてらの買い物と個々の力量にあわせて支援している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物時に預かっている小遣いをサイフに入れ自分で払って頂いたり、払えるように支援している。ご家族の協力や理解を得て小額のお金を持っていらっしゃる方もあります。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	希望にあわせ買い物や散歩をかねて戸外に出かけている。		戸外に出かける回数が少ないので機会を設けていきたい。職員への意識付けも必要。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	ご家族と相談し、ご本人の思いや希望を大切にし、外出できるよう支援している。施設としては外出を行事(花見、花火鑑賞、紅葉狩り、初詣等)に組み込んでいる。		より個別にしたい、やりたい、行きたい、食べたい等を伺い、察して希望を叶えられる支援をしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	要望時には電話をかけている。手紙はご本人希望に応じて封筒、便箋等買いに行き、投函までを支援している。また、荷物や贈答品等が届いた時はこちらから電話をしお礼を含めた会話ができるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	いつでも訪問歓迎しております。他者が気を遣われないように居室で会話されたりリビングだったり自由に過ごされています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束について理解しており拘束はありません。また、薬物や言葉の拘束も行わないように職員には周知している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵をかけないケアに取り組めるよう一人ひとりの日常生活の様子を観察するよう努めている。</p> <p>日中は内玄関に鈴をつけて出入りが察知できるようにしてある。徘徊などして外に出てしまいうなときは声かけを試みたり一緒にいていっている。</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>全体の様子が見える所に職員が位置している他に死角がなくなるようにミラーをつけている。</p> <p>夜間は定期的に巡視したり、鈴を特定の利用者様の布団につけることで音での所在確認を出来るようにしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者様一人ひとりの状況変化に応じて保管場所の変更や保管場所、方法の取り決めがある。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ひやりはつとを記録し、全体会議で話し合い対策を考慮している。誤嚥しないように調理方法の工夫、介助方法、転倒しないよう計画を立てたり誤薬のないよう薬の管理方法、徹底した確認をするよう取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変や事故発生時のマニュアルがあり、周知徹底を図っている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災時や災害時のマニュアルがある。消防署の協力を得て、避難訓練や救出方法の訓練を定期的に行っている。今年は地域の方々にも参加をして頂いた。消防計画を消防署に提出している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	暮らしの中で起こり得るリスクや状態変化について面会時や手紙、TELにてご家族に話をして理解を得られないよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回バイタルチェックを行っている、常に変化を見逃さないよう表情、動作の観察をし早期発見に努めている。 変化時はリーダー及び管理者に報告、指示をあおぎ状況により医療受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を各自のファイルに整理し職員が内容を把握できるようにしている、薬が変わった時は全職員が分かるように連絡ノートに記入し周知徹底を図っている。服薬時は誤薬のないよう日付、名前を確認し手渡し、声かけ、見守り、介助等にて支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日体を動かし便秘予防に取り組んでいる。食材や乳製品、飲食物等工夫し自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし、力量に応じて誘導、見守り、介助を行い、夜は入れ歯を預かり消毒を行っている。 全ての職員が口腔ケアの重要性を理解している。協力医院の協力により口腔ケア研修会も実施した。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量をチェックし水分量についてはほぼ全量摂取して頂いている。 医師の指導により摂取量が制限された場合や摂取量自体が少ない方は必要に応じてチェックしている。 食事も全量摂取できるよう刻みや調理方法や量の工夫を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルがあり予防、対策に努めている。感染症への関心を持つように心がけ早期発見早期対応に努めている。手洗い、うがい、ペーパータオル、ゴム手袋等の使用の徹底を図っている。全員インフルエンザの予防接種を受けている。特に、ノロウイルス予防については注意し、専用手洗い装置、消毒マニュアルの徹底をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台布巾、台所用品等、毎晩漂白剤につけるほか、アルコール製剤にて消毒をしている。週一回冷蔵庫の点検、掃除をし、清潔、衛生を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	案内板の掲示があり玄関先にもプランターを置いたり季節感や家庭的な雰囲気を作る工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内に台所があり台所仕事の音や匂いが常に感じられるようになっている。テーブルに季節の花を飾ったりリビング内をディスプレイし工夫している。また、より身近に季節が感じられるよう時期の花をベランダに植えて楽しめるよう工夫をしている。また、リビングの絵画も定期的に交換している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にテーブルとイスを置いている。たたみコーナーには掘り炬燵があり自由に過ごせるよう工夫をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者様それぞれ馴染みの家具や写真、思い出のある物を持ちこまれて生活されている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	常時、換気に気をつけ、換気扇を回したり窓を開けている。冷暖房は個別に対応したり温度差を考慮しながらこまめに行っている。床下、天井にセラミックによる消臭剤を配備し配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	随所に手摺りを設置しており自力支援に配慮している。利用者様の状況に応じて、ヒヤリハットにより必要な箇所への補強をその都度行っている。		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	利用者様が迷ったり、間違わないようトイレ洗面所の表示や居室に名札をつける等 配慮している。		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	庭が広く畑、スペースを確保している。利用者様がいつでもベランダに出られるように段差もなくし、車イスの方も自由に出入りできるようになっている。庭を活用した入居者、家族による芋煮会も実施した。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日、自由に穏やかに過ごせるよう一人ひとりと向き合い安心した生活が送れるよう取り組んでいる。
できることや生活習慣を大切に、残存能力が発揮できるよう取り組んでいる。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 郡山ケアハートガーデングループホームあさかの郷

(ユニット名) 2階(せせらぎ)

記入者(管理者) 山寺 イツ子
氏名

評価完了日 平成20年10月15日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	大切なその人らしさ、ご家族との関係、地域との関係など、お互いの関係を重視した理念を掲げている。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員採用時には必ず理念を伝えている。また日々再認識するように朝の申し送り時に出勤者全員で唱和している。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	入所時及び面会時に説明したり、ホーム便りを活用している。ホーム玄関、リビングの目に付き易いところに掲げている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	積極的にこちらから挨拶するように心がけている。利用者様と共に散歩や買い物に行き挨拶を交わしたり話をしたりしている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内会に入会、行事（盆踊り、お祭り等）に積極的に参加している。老人会、幼稚園との交流の他にもボランティアの方々がお茶会などのためにお越しいただいている。	近所の方が当たり前のようにお茶飲みや話をしに立ち寄ってもらえるようにしていきたい。また、友人宅へ訪ねたりできるように支援していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方からの相談、対応を随時受け付けている。</p> <p>運営推進会議で話し合いしたり、地域新規開設予定職員研修、近隣学生など実習生の受け入れを行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義や目的を共有し全員で自己評価を行っている。</p> <p>外部評価の結果は会議で報告し、改善に向けて職員全員で取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて評価への取り組みや利用者様の動向、活動状況を報告し、避難訓練など施設行事への参加要請や意見をもらいサービスの向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者と相談しながら行っている。</p> <p>出向いたり、電話で相談、意見をいただき、質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要と思われる場合はスタッフをはじめ関係者と話し合い活用できるよう支援する。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行ったり、身体拘束の資料を回覧したりして意識を高めている。職員同士が自覚を持ち、見過ごさないよう防止に努めている。</p> <p>職員同士が言葉遣いや行動に注意し、防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約書及び重要事項説明書を基に説明している。</p> <p>疑問点や意見等も伺い説明し、納得いただいている。解約時のご家族や関係者等に説明し納得を図れるようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が月2回来所。</p> <p>利用者様の相談に乗って頂いている。素直な意見を伺い、即現場に伝え反映させている。</p> <p>運営推進会議にも家族代表2名に参加いただきご意見を伺う機会を設けている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に最近の状況を伝えている。</p> <p>遠方の方にはTELや年4回のあさかの郷便りの他に手紙を書くなどして発信している。</p> <p>金銭の管理については個別の出納帳に記入してレシートと一緒に報告している。報告の際にはサインも頂いている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時などに意見や要望、苦情について投げかけをし、何でも話せる雰囲気作りに努めている。</p> <p>意見、要望、苦情があったときは即時スタッフに伝えて反映させている。又職員は普段の会話の中からもご家族の意見や要望、苦情を汲み取ることを意識し、情報カードに記入するようにしている。また、その内容についてユニット会議で話し合い意見、要望、苦情に沿えるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の全体会議と各ユニット会議で意見や提案の場を設けて反映させている。</p> <p>発言しやすい雰囲気作りを心がけている。また、ヒヤリ、ハット提案制度を実施し、極力対策を実施するよう心がけている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況や変化に伴った調整に努めている。</p> <p>管理者は状況に応じた対応が出来るようにシフト勤務にはしていない。夜間の対応や利用者様の状態(急変等)に応じられる体制になっている。</p> <p>芋煮会など主要行事時には可能な限り必要な時間帯に職員を確保できるようにしている。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を継続するために職員を担当制とし固定化している。職員間での信頼構築を図るために何でも言い合える環境づくりや仕事に責任や目的を持ち、やりがいを見出せるように努めている。</p> <p>職員が代わる場合は引き継ぎ期間を取れるよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県市町村、社会福祉協議会、社内の研修会に参加させ、全体会議で報告、共有化している。</p> <p>また、随時対応方法や不測の事態にそなえ対策をアドバイスしている。また法人全体としても全国の職員を定期的に階層的に集合研修する場を設けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修会に参加した際に交流の機会を持つようにしている。</p> <p>社内の全国研修会に参加した際もネットワーク作りをし、サービスの質の向上のための参考にしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスが軽減できるよう関係作りや環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>休憩室を設けており勤務中に一息つける時間も作っている。</p> <p>有給休暇取得についても日勤専門の職員を配置するなど、取得しやすいよう配慮している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が興味ある研修や資格を得るための講習会を優先的に受講できるようサポートし資格取得の支援を行っている。会社としては介護福祉士等の資格取得時には表彰制度を設け、表彰金を付与している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常に声かけや問いかけをし教えてもらう場面作りをしている、叱られたり、いたわりの言葉が聞かれたり、笑い声が響いたりする毎日です。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの状況や気付きを伝え、ご家族の意向や要望を伺い、計画や関わりの中に取り入れている。 ご家族と過ごされる時間を大切にする為に面会、外出しやすいうように取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人、ご家族のお互いの思いを受け止め無理のない距離での支援を働きかけるよう心がけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人友人が気兼ねなく訪問して頂けるよう伝えている。ご家族との外出、外泊等支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係を把握し、食事の際の席の配置など考慮。話し相手をお願いしたり、職員が橋渡しを心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要なときは相談に乗ることを伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	希望や意向を伺っている、または生活や言葉から察する努力をし把握に努めてユニット会議等にて共有化している。	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入所前にご自宅やご本人の居場所等を訪問しご本人、ご家族、関係者等から話しを聞いたり無理のない範囲内でご家族にアセスメント用紙に記入いただいている。	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	一人ひとりの過ごし方、心身状態、ケアプラン等生活シートに記入し、スタッフ全員が把握できるようになっている。他連絡事項は連絡ノートを活用し連絡がいきわたるようにしている。また、ユニット会議、ケアカンファレンスで共有化している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	ご本人、ご家族の要望や意向を伺ったり意を察して職員と話し合い、介護計画を作成している。また、ユニット会議、ケアカンファレンスで共有化している。	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	計画書に期間を設けそれに応じて見直しを行っている。見直し前に変化が生じた場合はご本人、ご家族、職員と話し合い新しく計画書を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活シートに一日の様子を記録し情報を共有している。気づきやアイデアも活かせるよう記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会、民生委員、老人会、ボランティアの方々にはお茶などの諸行事にて積極的な協力を得ている。 他に避難訓練の際には近隣住民、消防署にも協力いただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の希望に応じ、訪問理容のサービスを利用している。 また必要な福祉機器の整備、設置の支援や主治医以外の医療機関からの往診を希望に応じお願いすることもある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が利用者様の担当ケアマネジャーだったり運営推進委員であるので情報交換がやすく、協力させて頂いている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医は事業所の協力医またはご本人、ご家族が希望される医院と選択は自由である。ご家族や医療機関への情報提供を行い適切な医療を受けられるよう支援している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>例として脳神経専門医療機関が協力医療機関になっており必要に応じて相談したり情報提供したうえで治療を受けられるようになっていく。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>早期退院に向けて、面会に行き関係者と話をする機会を設け、そこで得た情報を準備や段取りに活かしている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に向け、事業所として対応でき得るケアについて話をしている。利用時にも説明をしている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけ医と相談しながら「できること、できないこと」を相談し見極め家族と話し合い、今後の変化に備え理解を得られるよう準備をしている。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住まいが変わってもこれまでの暮らしが継続できるよう、支援の内容や方法、注意すべき点についてご家族やケア関係者にアセスメント用紙や計画書を用いて伝え、事前面接も行って頂くことで情報交換を密なものにしダメージを防いでいる。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>				
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の意識向上もかねて、プライバシーやプライドを損ねないよう、イニシャルで伝えたり他者に気づかれないよう声かけをするなどの対応をしている。</p> <p>個人情報保護、秘密保持についても社内マニュアルにより徹底している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>常に問いかけの言葉かけをしたり選択肢を提案して決定する場面作りを支援している。また、意味を察したり読み取る等職員の意識向上にも努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人、その時々々の体調や気持ち、思いに配慮し柔軟に対応している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている (認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>好みの服を選んで着ている。化粧されている方や化粧したいが出来ない方には化粧品を預かったり介助し支援している。</p> <p>昔から通っていた美容室へ行かれる方もおります。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜の皮むき、お膳並べ、テーブル拭き、片付け、おはぎ作り等、利用者様の力に合わせて声をかけ一緒に行っている。味付け、いりどりに気をつけ食べやすく刻んだり薄くしたりし、同じテーブルと一緒に食事を楽しんでいる。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物と一緒に出かけ好きなものを購入し居室で食べている方もいらっしゃる。施設としては希望に沿いつつ衛生管理に配慮している。</p> <p>町内会の盆踊りに出かけお酒を飲まれる方もいる。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>表情や動作で察知し、トイレに誘導したり定期的に誘導しトイレでの排泄を促し、自立または気持ちよく排泄が出来るよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ご本人の意思を伺って入浴していただいている。気が乗らない方、しばらく入浴されていない方にはタイミングを見計らい薦めている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中、体を動かす機会を設け、活動を促し生活リズムを整えられるよう努めている。</p> <p>習慣で寝巻き(浴衣)を着られる方もおり、希望を優先している。</p> <p>夕食後、TVを見たりおしゃべりをしたりと就寝時間は自由に行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>できる、出来そうな仕事、好きか嫌いかな等見出し場面を作り、依頼し、感謝の言葉を伝えている。</p> <p>食事づくり、片付け、洗濯物干し、たたみ、散歩がてらの買い物と個々の力量にあわせて支援している。</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物時に預かっている小遣いをサイフに入れ自分で払って頂いたり、払えるように支援している。ご家族の協力や理解を得て小額のお金を持っていらっしゃる方もあります。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	希望にあわせ買い物や散歩をかねて戸外に出かけている。		戸外に出かける回数が少ないので機会を設けていきたい。職員への意識付けも必要。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	思いや希望を受け止めご家族と連絡を取り合いながら機会を作っている。 幼なじみの友人、ご家族と泊りがけで温泉に行ったり、温泉でカラオケをして楽しまれている。		より個別にしたい、やりたい、行きたい、食べたい等を伺い、察して希望を叶えられる支援をしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	現利用者様には手紙が書ける方がいません。要望時には電話をかけている。 また、荷物や贈答品等が届いた時はこちらから電話をしお礼を含めた会話ができるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	いつでも訪問歓迎しております。 他者が気を遣われないように居室で会話されたりリビングだったり自由に過ごされています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が身体拘束についてりかいしており拘束はありません。また、薬物や言葉の拘束も行わないように職員には周知している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、トイレ、内玄関等に鍵をかけられるようになっていて内玄関だけ夜間のみ鍵をかけている。日中は内玄関に鈴をつけて出入りが察知できるようにしてある。徘徊などして外に出てしまいそうなときは声かけを試みたり一緒にいていっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全体的様子が見える所に職員が位置している他に死角がなくなるようにミラーをつけている。夜間は定期的に巡視したり、鈴を特定の利用者様の布団につけることで音での所在確認を出来るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様一人ひとりの状況変化に応じて保管場所の変更や保管場所、方法の取り決めがある。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはつとを記録し、全体会議で話し合い対策を考慮している。誤嚥しないように調理方法の工夫、介助方法、転倒しないよう計画を立てたり誤薬のないよう薬の管理方法、徹底した確認をするよう取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルがあり、周知徹底を図っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時や災害時のマニュアルがある。消防署の協力を得て、避難訓練や救出方法の訓練を定期的に行っている。今年は地域の方々にも参加をして頂いた。消防計画を消防署に提出している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>暮らしの中で起こり得るリスクや状態変化について面会時や手紙、TELにてご家族に話をして理解を得られないよう努めている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日2回バイタルチェックを行っている、常に変化を見逃さないよう表情、動作の観察をし早期発見に努めている。 変化時はリーダー及び管理者に報告、指示をおおぎ状況により医療受診につなげている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方箋を各自のファイルに整理し職員が内容を把握できるようにしている、薬が変わった時は全職員が分かるように連絡ノートに記入し周知徹底を図っている。服薬時は誤薬のないよう日付、名前を確認し手渡し、声かけ、見守り、介助等にて支援している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎日体を動かし便秘予防に取り組んでいる。食材や乳製品、飲食物等工夫し自然排便が出来るよう取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけをし、力量に応じて誘導、見守り、介助を行い、夜は入れ歯を預かり消毒を行っている。 全ての職員が口腔ケアの重要性を理解している。 協力医院の協力により口腔ケア研修会も実施した。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食、食事量をチェックし水分量についてはほぼ全量摂取して頂いている。 医師の指導により摂取量が制限された場合や摂取量自体が少ない方は必要に応じてチェックしている。 食事も全量摂取できるよう刻みや調理方法や量の工夫を行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策のマニュアルがあり予防、対策に努めている。感染症への関心を持つように心がけ早期発見早期対応に努めている。手洗い、うがい、ペーパータオル、ゴム手袋の使用の徹底を図っている。全員インフルエンザの予防接種を受けている。特に、ノロウイルス予防については注意し、専用手洗い装置、消毒マニュアルの徹底をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台布巾、台所用品等、毎晩漂白剤につけるほか、アルコール製剤にて消毒をしている。週一回冷蔵庫の点検、掃除をし、清潔、衛生を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	案内板の掲示があり玄関先にもプランターを置いたり季節感や家庭的な雰囲気を作る工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内に台所があり台所仕事の音や匂いが常に感じられるようになっている。テーブルに季節の花を飾ったりリビング内をディスプレイし工夫している。また、より身近に季節が感じられるよう時期の花をベランダに植えて楽しめるよう工夫をしている。また、より身近に季節が感じられるよう時期の花をベランダに植えて楽しめるよう工夫をしている。 また、リビングの絵画も定期的に交換している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にテーブルとイスを置いている。 たたみコーナーには掘り炬燵があり自由に過ごせるよう工夫をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者様それぞれ馴染みの家具や写真、思い出のある物を持ちこまれて生活されている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	常時、換気に気をつけ、換気扇を回したり窓を開けている。冷暖房は個別に対応したり温度差を考慮しながらこまめに行っている。床下、天井にセラミックによる消臭剤を配備し配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	随所に手摺りを設置しており自力支援に配慮している。利用者様の状況に応じて、ヒヤリハットにより必要な箇所への補強をその都度行っている。		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	利用者様が迷ったり、間違わないようトイレ洗面所の表示や居室に名札をつける等 配慮している。		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	庭が広く畑、スペースを確保している。利用者様がいつでもベランダに出られるように段差もなくし、車イスの方も自由に出入りできるようになっている。庭を活用した入居者様、ご家族による芋煮会も実施した。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3ぐらいの 利用者の1/3ぐらいの ほとんど掴んでいない	その他()
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他() 少しでもゆったりと過ごせる場面を作るよう努力している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3ぐらいが 利用者の1/3ぐらいが ほとんどいない	その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3ぐらいが 利用者の1/3ぐらいが ほとんどいない	その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3ぐらいが 利用者の1/3ぐらいが ほとんどいない	その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3ぐらいが 利用者の1/3ぐらいが ほとんどいない	その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3ぐらいが 利用者の1/3ぐらいが ほとんどいない	その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3ぐらいと 家族の1/3ぐらいと ほとんどできていない	その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	その他()
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない	その他()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日、自由に穏やかに過ごせるよう一人ひとりと向き合い安心した生活が送れるよう取り組んでいる。
できることや生活習慣を大切に、残存能力が発揮できるよう取り組んでいる。